

平成 29 年 1 月 23 日

事故情報の分析の試行について

(氏名) 藤田 和彦

1. 目的

事故情報データベース、および、そこに登録されている事故情報とその利用方法に関して、情報の収集・分析・判断・配布の経路、および情報の加工・編集の過程を対象に、**システム全体の分析**を行う。これにより、収集される情報が十分であるか否か、分析・判断の適時性、有効性を発揮できるか否か、そして、情報利用者（消費者や事業者）が、配布される情報を十分に活用し、事故や危険を回避できるか否かを検討することで、**システムとしての改善点を提案し、改善による効果を評価**する。

2. 分析する事故情報の分野

事故情報データベースシステム、および、そこに蓄積されている事故情報全体を分析対象とする。そこから得られる**事故分類**とその情報に関わる**当事者・関係者のセグメント**、および、その属性を明らかにする。

3. 分析において活用する技術

分析においては、**システムモデル化手法**、および、**思考展開法**を用いる。システムモデル化手法は、システムの構成要素とその関係性を明らかにし、情報の流れを表出することができる。また、思考展開法は、複数人のグループで事象を分析し、考えを作る際、グループワークを通して、漠然としている情報や考えを分析・整理・統合し、課題・解決策を表出でき、かつ、議論のプロセスを明確にすることができる。なお、システム改善案作成には、思考展開法を用いた**ワークショップ**を開催する。

4. 期待される成果

現在の事故情報データベースシステムを基に、情報利用者にとってより便益のある**システムの形を明らかに**することができる。